

快

感 經 驗

・ 一 二

〜 奉 世 快 樂 〜



東方Project Fanbook  
for adult only

今日は食事の後から、身体の調子がおかしかった——



火照って仕方がない——  
身体中がとても熱い——

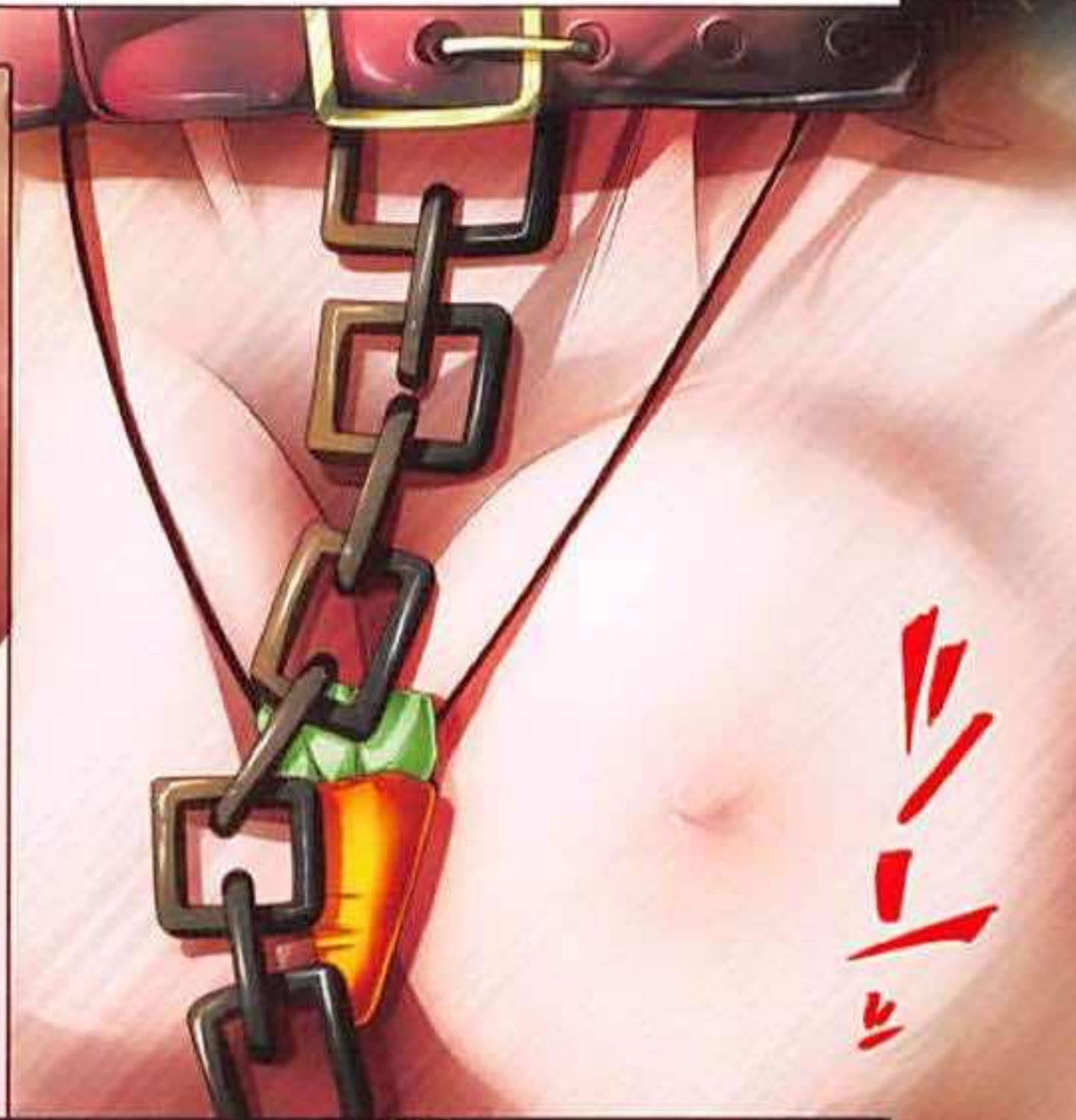
あつ

んうっ

キゅわん

たぐん

びん



ツツツ

衣擦れすら苦しくて  
このままじゃいけない  
このままじゃ……またあんなことをされたら——

やだ 手が勝手に  
——我慢できないっ



はあ  
わたしの身体  
おかしく  
なっちゃった……

十二



フフ……

順調に効果が出てきたみたい  
じゃないか  
今日は今までにない快楽を  
味わわせてやる……

ゼク



卑怯者っ!

ひびいー

そんなっ!

私の言うことを聞かないとお前の大切な友人が今までの行為と同じ目に遭うことになるぞ

フフ……そんな事を言ってもいいのにか?

そんなの——っ絶対にイヤ!

さあ まずは胸を使ってこいつをしごいてもらおうか



逆らったら

逆らえない

ひびいー!!  
あぁっ……

んんん

うう……  
こんなの  
ひどすぎるよ……

……鈴仙が  
……標的に

あぁっ  
あぁっ

んんん

ふふ  
十二分に乳首が立ってるじゃないか  
この淫乱鬼め

こ、これほっ  
あなたが変な薬を  
混ぜた所為でしょう!

はっ……  
あぁっ

てみは初め恨めしそうにこちらを睨んでいたが、やがて何かをあきらめたのか、おすおすとその熱い胸を使って肉棒をしごき始めた。行為に及びながら、時折わずかに髭の入った声を漏らしている。娯楽の効果で行為が深まるにつれ、てみの表情は次第にとろけていった。

よし、次は口を使え

間違っても歯なんか立てるんじゃないぞ  
— 分かつてるな？

— 鈴仙

はっ  
んんう

ほろりなかなか  
上手いじゃないか

んぐっ

ひゅ  
ううう

わたし、ね

ほら出すぞ！  
しっかり飲めよ

頑張るから—

命令されてからしばらくはついばむようにキスをしていたが、てあはやがて肉棒を  
咥え込むと、舌や舌を糸すことなく使い堪能し始めた。  
まるで愛しい者を包み込もうとするようにしゃぶり続けている。  
てあは口内で出された精子とその臭気に驚き、口からこぼしてしまった。

全部飲むように言ったじゃないか  
言いつけを守れない淫乱鬼には  
お仕置きをしてやらないとな

そ、そんなっ  
あんなの飲めるわけ――

あぐ……っ

や、やだ なにこれっ  
気持ちよすぎて 頭が  
おかしくなっちゃう……っ

挿れただけで軽くイッた  
みたいだな

まったく  
とんでもない淫乱鬼だ

あぐ……っ……っ……っ

セクセク

んああっ

ガクガク

こ、これは  
違うの！  
こんなの……

いきなりの口内射精に咳込んでいるてあを持ち上げると、向かい合う姿勢で肉棒を  
おじ込んだ。すでに濡れていた膣はすんなりと受け入れ、それだけでてあは  
絶頂に達してしまった。  
我慢できない様子で、てあはくぐもった なまめかしい声をこぼしている。



ドロオー

ひびい

さっさと消えて

んっ あっ  
やだあつ抜いてえ  
えっ



フッポ

さて、そろそろシメにとりかかるか

フッ

うう……何これ……。ドロドロしてて気持ち悪くて、でもすぐに消えちゃった——

バクッ!

——!? あっつ……体が——や、やだ、さっきより感じやすくなって……あっ、ま、またキちゃ——っ



腰が勝手に——  
わたしの意志  
なんかじゃないのに

もっど

も  
ド  
ビ  
ン  
グ

う

だだめえっ  
もう何も考えられない  
ただ もっと深く——  
つながりたいよお——

さあ お前の好きなように  
奉仕してみせろ——

もっどお

揮発・皮膚浸透性の高い  
特注媚薬の味はどうだ?  
蕩けるような心地だろうだろう

ド  
ビ  
ン  
グ

てみこふりかけた媚薬は、またたく間に消えていった。てみは先ほどよりも荒く息をし始め、ほおはかなり上気している。  
とろけた表情で腰を振ろうとする彼女を制止すると、あなたは床に仰向けになった。するとてみはいてもたってもいられない表情であなたの上にもたがると、ゆっくりと肉棒を白らの秘部へと導いた。

奥までの  
当たりの  
ふああ……  
ふわふわしちゃう

ズ  
ツ

もいとお  
もつと激しく突いてえ!

気持ちいいよお……

んん

あ  
は……あ  
こんなの……  
こんなの嫌なのに……



んんんんん

んんんんん

ううんこれ  
いいの  
んんん  
あいい  
ううん



ふふ……いい顔だ  
やつと素直になつたな  
たつぷり可愛がつて  
雌として最高の快楽を  
与えてやるッ!

んんん

んんん

ておはその体勢のまま、こらえきれない様子で自ら腰を動かし始めた。すでに我慢する様子もなく、思いのままに可愛らしい声であえいでいる。

奥の奥まで  
犯し尽くしてやるっ！

ひあああああ  
らめ……え

消えちやう……  
みんなが……消えちやうよお

そんなものは忘れてしまえ

この快楽に溺れて  
俺のこと以外考えられなく  
なつてしまえっ！

お、しゅ♡

さあ どうしてほしいか  
ねだつてみせる！

は……ひっ♡  
くうん  
気持ちいいの……  
もつとほしいよお……♡

んんっ ああ……♡  
ご主人様……ご主人様の  
モノでわたしのお股を  
突いてくださいっ

んああっ  
や、やだ  
もうキちやう……  
ああ……はっ……あ……

ズン

ドクッ

ドクッ

あなたはてみにお肉棒を差したまま乱暴に起き上がると そのままでみを押し倒し、  
激しく注挿を繰り返した。子宮を空くほど深く挿入すると、てみはだらしなく  
よだれを垂らしながら、打ち寄せる快感に嬌声をあげて絶頂を迎えた。  
てみは絶頂に達した後、光を失った目で声にならないうめきをもらしていた。  
■体力が限界にきています。調教を終了します。  
[てみの 従順のLvが上がりました 屈服刻印のLvが上がりました]





■はじめましての方ははじめまして！  
前作でお会いした方にはお久しぶりです！  
サークル『しろくろろま』のスキユウです。  
この度は当サークルの本を手にとって頂き  
誠にありがとうございます！

今回のイラストページはエロ絵が切れて  
しまっているの、なんとか未出の一般  
イラストで勘弁願います(´ω`)  
R18本なのに申し訳ない。

→はレミフラ絵。  
フランを幽閉するシーンを描いてみました。  
きっと幽閉に至るまでにいろいろな話  
があるんだろうなあ……と妄想しながら。

→はややみょん。  
刀が描きたかった！  
幽々様はいつの間にかくっついてました(え  
構図は豪華になりましたが、幽々様の刀が  
鬼畜すぎて頭が禿げそうになりましたorz



■あとがき

今回はふんだんに媚薬を投与しています。  
お昼ご飯に一回。調教中に一回。これであなたも一日元気！ハハハ  
……何言ってるんだ私は(；´д`)

今回の大きな変更点といえは、まずはページの下に文字が入るようになったことでしょうか。  
黒枠で領域を確保して、白文字でeratoHo風の描写を入れてみました。  
むしろ、一部本家から引用している部分もあります。あなたのバリエーションとの違いを楽しむのも  
……って、べつに本文中ではアレンジした文章を使ってるんだから、比べようがないじゃまいか。

(´・ω・`) (´・ω`…… (´……… …… サラサラ

実はこの黒枠、失敗したなあと思ってます。  
私(ってか多くの人?)の描き方だと、肝心のエロ部分(tntnとかおまん●とか)が下のほうに  
きちゃうので、黒枠で消されてしまうのですね。かなり苦勞させられました。てかtntn普通に  
消えてますね。死(´p`)描いてはいるんですけどー！  
あとフォント。せつたい読みにくい。メールとかで「読みにくいわこのボケ！」と言って下されば、  
善処します。あのフォント好きなんだけどなあ……もうすこしまスの多いフォント知らないでしょ  
うか。知っている方は是非連絡をお願い致します。報酬は次回の私の新刊で(ry

あと男がさりげなく喋ってます。  
ずいぶん大きなことを言う割には早漏だったり媚薬に頼ったり、精けない奴です。  
まったく誰なんだろうな。……え、なんですか、そんな目で私を見ないで下さい(\*´д`\*)

次回は夏コミ(C78)に参加予定です。今回は多少の経験値がないとやってくれない奉仕メニューを  
選んでみましたが、次はレス……いや、触手……うーん、どちらにしようか…… 2010/02 スキユウ

原作:  
上海アリス弦楽団様

発行日:2010/03/14

発行:しろくろうさ

責任:スギユウ

連絡先:yuu\_819\_as@hotmail.com

印刷:ねこのしっぽ様

HP(ブログ):<http://pixiv.cc/yuukke8/>

pixiv:<http://www.pixiv.net/member.php?id=97799>

禁無断転載複製 焼肉の前にはプリショットルーティーンを忘れずに。